

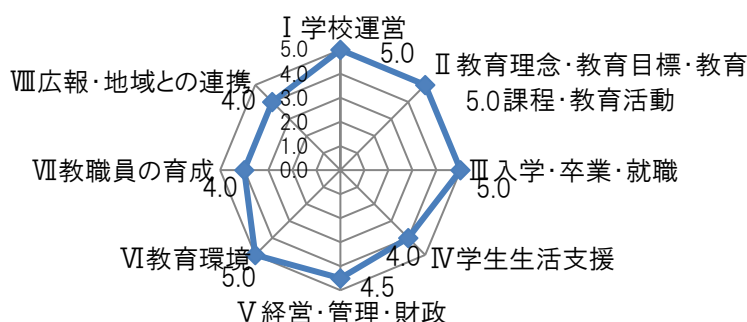
目的

自己点検・自己評価結果の客観性と透明性を高めて学校運営の改善を図るために、看護・教育等に指揮権や経験を有する学識経験者の「学校関係者評価委員」の方々に、令和4年3月29日に、内容を評価していただきました。

学校関係者評価委員としてご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。今回の評価結果を受けて今後も改善を図り、本校教育の充実を進め、地域社会に貢献できる看護職の養成に努めてまいります。

- 学校関係者評価 委員長 入山 玲子（大阪済生会野江看護専門学校 副校長）
 委員 槌田 洋子（岡山済生会看護専門学校 同窓会会長）
 三上 由美（岡山済生会総合病院 看護部長）
 高尾 海青（岡山済生会看護専門学校 平成30年度卒業生）

自己点検自己評価 8 領域36項目の結果 評価基準 満たしている 5 3 1 改善すべきである



カテゴリー	評価点	概要
I 学校運営	5.0	前年度の評価を活かし、課題が着実に改善している。すべてのカテゴリーで自己評価を支持。
II 教育理念・目標・教育課程・教育活動	5.0	<ul style="list-style-type: none"> ・ I 学校運営、II 教育理念・目標・教育課程・教育活動では、令和4年度からのカリキュラム改正に向けた取り組みをはじめ、状況に応じた新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を継続しながら、学校運営が実践されている。 ・ 領域別実習がスタートした2年生と実習指導者との交流会は、相互に有意義な会となっているため、次年度からも継続してほしい。
III 入学・卒業・就職	5.0	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業生の支援は、今後も、就職先と連携し卒業生が看護を続けられるような支援を継続してほしい。また、ホームカミングデイは現在卒業1年目を対象にしているが、卒業生のニーズに合わせ対象を拡大する検討をしてはどうか。
IV 学生生活支援	4.0	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍で、臨地での看護学実習を続けられていることは、実習施設との信頼関係が構築できている結果である。長期化するコロナ禍での健康管理は厳しいが、各自が医療従事者であることを認識し、新型コロナウイルス感染症拡大予防対策を継続できる教育が必要である。
V 経営・管理・財政	4.5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員育成に関して、今年度は、関連科目の授業参観や複数の教員での授業を行っている。全国の済生会の看護学校間で、領域別に授業参観・授業研究を行い、共に教育の質の向上ができるよう計画したい。
VI 教育環境	5.0	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員育成に関して、今年度は、関連科目の授業参観や複数の教員での授業を行っている。全国の済生会の看護学校間で、領域別に授業参観・授業研究を行い、共に教育の質の向上ができるよう計画したい。
VII 教職員の育成	4.0	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少子化で18歳人口が減少しており、学生募集はますます厳しくなる。受験生のニーズを把握し、新たな広報計画の策定が必要になる。
VIII 広報・地域との連携	4.0	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少子化で18歳人口が減少しており、学生募集はますます厳しくなる。受験生のニーズを把握し、新たな広報計画の策定が必要になる。